

病院活動のこと



「しぶたね」をつくるきっかけになったのは、病棟の廊下で親御さんを待っている小さなきょうだいさんたちでした。中学生以下の子どもは感染予防のために病棟に入ることができず、面会時間が終わるまで何時間もじっと静かに廊下で親御さんを待っています。ひとりきりでレジャーシートを敷いて、おもちゃやゲーム、夕飯のお弁当やおやつと一緒に…時にはうすくまって学校の宿題をしていることもあります。楽しいこともおもしろいことも笑うこともしゃべることもない数時間。そんな生活が何ヶ月も続いているきょうだいさんもあります。病院は小さな子どもが過ごすには危険で、心細くて、退屈な場所です。ずっとひとりきりで過ごし、誰からも見てもらえないと感じることが、自分を大切にすることを弱らせてしまうこともあります。そんなきょうだいさんたちが安心していただける居場所を、少しでも楽しく親御さんを待てる時間を、と求めてきました。そして2006年2月、遂に病院での活動をはじめることができたのです。

きょうだいさんのためのおへやって、 どんなところ?



32

はじめて来てくれたきょうだいさん目をキラキラさせて、聞いてくれました。「ここ、ぼくのための部屋なんだよね?」そうだよー! 待たせてごめんね。たっぷりあそんだきょうだいさんが言ってくれます。「楽しかった!」「明日もある?」帰りのエレベーターの扉が開まる直前までずっと可愛い手をふってくれるきょうだいさんもたくさんいました。嬉しかったです! 病院の中に、きょうだいさんのための場所、きょうだいさんと一緒にあそびたいなーと思ってる人、ちゃんがいるよ。あなたががんばってるの知ってるよ。そんな気持ちで活動を続けています。

もう一つ感激するのが、病院のスタッフの方々が本当にあたたかくよくしてくださることです。

2006年に活動を導入した時は、患者さんではなく「きょうだい」のために私たちボランティアが入ることは大変なことで、管理部の方をはじめ、お医者さん、看護師さん、たくさんの方が何年も話し合いを重ね、活動導入までつなげてくださいました。「4年越しでやっときょうだいの笑顔を見る夢が叶ったわ」と言ってくださった看護師さんは、夜遅く廊下で眠ってしまったきょうだいさんに、病棟からバスタオルを持ち出してそっとかけてくださっていたそうです。部屋が静かすぎるのではとCDプレイヤーをプレゼントしてくださった看護師さんは、病棟の中のテレビをガラス越しに廊下のきょうだいさんに見せてくれていたそうです。帰り際に覗いてくださった先生は、子どもが少ないのを見て「これじゃもったいない!」とかばんを投げ出してきょうだいさんを探しに行ってくださいました。管理部の方も、部屋できょうだいさんがあそんでいるのを見て「殺風景すぎるから、何か買おうよ」と言ってくださいました。ボランティア導入に向けてずっとがんばってくださっていた管理部の窓口の方は「いつもぼつんと過ごしているきょうだいたちがこんなに楽しそうに笑うのを初めて見ました」と涙ぐんでくださいました。

おたんじょうびのきょうだいさんには手作りシールをプレゼントしています。おめでとう!



あれから8年、活動回数のはべ187回になりました。たくさんのきょうだいさんがあそびに来てくれて、たくさんのボランティアさんがきょうだいさんに寄り添ってくれました。山ほどあるおもちゃで次々にあそぶ日もあれば、廊下に出て紙飛行機や傘袋のロケットを飛ばしまくる日も、2時間延々「UNO」で盛り上がる日もありました。お手紙をくれた子、DSを見せてくれた子、おもちゃの誘惑とたたかいながら宿題をがんばった子、プラレールが好きなおもちゃ、ぬいぐるみのゴリさんのお誕生日をお祝いしてくれた子、一緒に何度も廊下をお散歩した子、帰りたくないと言ってくれた子…。みんなみんな本当に可愛くて、宝物のような時間でした。

親御さんも、「突然の入院で大変だったけれど、きょうだいに楽しい時間があったので助かりました」「ここの病院はしぶたねさんがあるので安心です」とありがたいことを言ってくださったり、外来に通院に来た帰りに、きょうだいさんを連れて顔を見せに来てくださることもあります。月にたった2回、2時間しかできていない活動なのに、こんなにたくさんのごほうびをもらってしまって…。

今ではボランティアコーディネーターさんも、やさしく活動を見守ってくださっています。2013年の10月からは、病棟とは別の階で、保育士さんによるきょうだい支援(きょうだいさんの一時保育)も始まりました。とっても優しい保育士さんと、とっても可愛いお部屋。入院している子どものきょうだいさんと、外来と一緒に来ているきょうだいさんがこの部屋で過ごしているそうです。いつか一緒にきょうだいさんのためのミニイベントをできたらいいな…と夢見るしぶたねです。



よろしく
おねがいします!

別の階にきょうだい預かり部屋ができたことで、これまで活動していた部屋がなくなり、しぶたねの活動は廊下にマットを敷いて行うスタイルになりました。最初は慣れなくて、「人の目が気になるねー」「でもきょうだいさんは毎日この目線で過ごしてるんだよねー」とボランティア同士でしみじみしましたが、病棟が近くなったことで、親御さんがガラス越しにちらっと様子を見ることができたり、ガラス越しに入院しているきょうだいとあそぶこともできるようになって、病棟の近くにいる良さも感じています。

何にもなかった廊下に突然現れるカラフルなマットとおもちやとボランティアたち。なかなか開放的です♪



「おもちゃいっぱいあるよ? ちょっとあそんでいかない?」と声をかけると「私は病気の子じゃないから…」と遠慮するきょうだいさんにまだまだ出会います。ここにいていいんだよ。あなたとあそびたくて集まった人たちなんだよ。これからもみんなで楽しく伝えていきたいです。

病院活動で人気のおもちゃ



なんととってもプラレール! これは最高傑作?の5せんコース★



おままごとキッチンとゴリさん。ゴリさんは口をあけてごはんを食べてくれます♪



夏はビニールプールでヨーヨー釣りやスーパーボールすくいをします。みんな名人!

おしゃべりどうぶつボールは老若男女にウケます♪



少し大きなたちには髪型や洋服のシートを重ねて似顔絵を描くおもちゃや、UNOが人気でした

おもちゃは、寄付していただいたものと助成金で買ったものがほとんどです。たくさんの方のあたたかい気持ちのこもったおもちゃたちが、いつも子どもたちのお友達として、私達の相棒として活躍してくれています。ありがとう"ご"います!

33